

家庭における人権教育

❁ 家庭や地域の大人が手本を示す大切さ

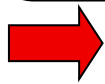
こどもが豊かな心や自他の人権を尊重し合う態度を身に付けるようになるためには、家庭や地域の大人が日常生活を通じ、差別をしない姿勢を示していくことが重要です。

❁ 家庭における人権教育

こども一人一人をかけがえのない存在として尊重し、個性を生かすとともに、他人への思いやり、命や人権を尊重する豊かな心を育むことが大切です。

★愛情と厳しさをもって育てましょう

ささいなことでも「できた」ことや努力したことなど、こどものよさを見付け、愛情をもって大いにほめましょう。そして、してはいけないことをしたときは厳しさも必要です。

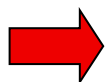


「⑨ほめることの効果」

「⑩子育てで大事なことは、さじ加減」

★こどもの話をしっかり聞きましょう

大人がこどもの話に耳を傾けることは、こどもを認めることにつながります。こどもは愛情を感じ、家庭の中での存在感を実感していきます。



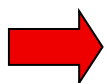
「⑦話の聞き方で心をつなぐ」

「⑧話を聞くときのポイント」

★日常の生活を通して身に付けさせましょう

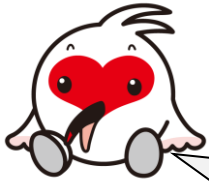
家庭において、しつけや道徳観、正義感や人を思いやる心などを、日常生活を通してこどもに身に付けさせましょう。

また、こどもが学んだことを共通の話題にするなど、学びを共有していくことも大切です。



「⑫こどもと一緒に、いじめについて考えてみましょう」

【参考・引用】新潟県人権教育・啓発推進基本指針



人を差別するような子にはなってほしくない

親は、子どもがいじめに加わったり、他人を差別し傷つけていることに気づいたときには、それが人間として恥ずかしい行いであることを教える責任があります。

その際、理屈であれこれ言うより、子どもを愛していること、すてきな人に育てほしいこと、いじめたり差別したりするのを見てショックだったこと、二度としてほしくないこと、など親としてのほんとうの気持ちを伝える努力をしましょう。

また、まず親自身が偏見をもたず、差別をしない、許さないということ、子どもたちに示していくことが大切です。



子どもは親の姿を見て学んでいく

親に感謝し、親を思いやる心は、広く他人を思いやる心の基となる大切なものです。まず親が自らの親である祖父母を大切に作る姿を見せることを心がけましょう。

大人たちは、自らの親への接し方や、思いやりのある社会のために何が必要かについて、子ども自身から問われているのだということを考えましょう。



いじめは人間として恥ずかしい行いだ

いじめることは、人間として決して許されないことであり、いじめをはやし立てたり傍観したりすることも同じである、ということを家庭の中できちんと話し合ひましょう。そして、自分の子どもがいじめをしているとわかったら、必ずすぐにやめさせてください。

また、いじめる子の中には、親から暴力や強いプレッシャーを受けるなど、家庭でも学校でも居場所がない子どもが多いと言われます。子どもが楽しめるものを見つけ、心が満たされるように配慮するなど、いじめをしない心の環境づくりをしましょう。

【参考・引用】「家庭教育手帳（文部科学省）」

「新潟県人権教育基本方針」を知っていますか？

～保護者の責務を理解し、こどもの人権尊重の精神を育てましょう～

私たちが生きる社会では、人間の生命や権利などに関する様々な問題が発生しています。みなさんはどのくらいご存じでしょうか。

新潟県教育委員会では、人権教育、同和教育の取組を一層進めることを目的に「新潟県人権教育基本方針」を制定、改定しています。



偏った情報をもとに特定の立場の人を攻撃していませんか？

ネット社会を生きる私たちにとって、多くの情報は、インターネットやSNS等を通じて、収集したり発信したりされています。安易に情報を手にすることができる反面、差別や偏見など人権を侵害する場面も見られます。

保護者として、こどもの様子に目を配りましょう。「人権を守ること」は、「自他の命を守ることである」と認識できるかどうかが問われています。

インターネット上の情報を安易に鵜呑みにしていませんか？



インターネットによる人権侵害を防ぐために

- ・研修会に参加して、様々な人権問題を正しく理解しましょう
- ・人権教育や道徳の授業等を参観して、お子さんの学びを知りましょう
- ・社会や身近な出来事について、お子さんの成長に合わせて話題にしましょう



間違った情報が広がることで、誰もが被害者にも加害者にもなり得ます。自らの言動の前に「インターネット上の情報を安易に鵜呑みにしていないか」、「偏った情報をもとに特定の立場の人を攻撃していないか」などについて、考えることが大切です。

家族の何気ない言動が、こどもに誤った情報を刷り込んだり偏見や差別を助長したりする場合があります。豊かな人権感覚を身に付けるためには、幼児期からの家庭教育がとても重要です。

【参考・引用】新潟県教育委員会リーフレット「新潟県人権教育基本方針」